**Checklist #1: [countable] [C] などの記載がある場合**

[countable] [C] などの記載は「可算扱い」することを示しています。以下の項目を確認しましょう。

| **チェック** | **チェック内容** |
| --- | --- |
| Not OK | **単数形で用いるときは基本的に必ず限定詞 (determiner) を前に置く**限定詞の例: a, an, the (冠詞); this, that (指示限定詞); my, his, her, their, its, John’s (所有限定詞); threeなどの数字, each, every, a few, many (数量詞)▶[詳細な解説はこちら](#atg3z1b0x1tg) |
| Not OK | **複数形のスぺリンクを確認する**多くの名詞の複数形は -s や -es をつけることで作成できるが、そうでない名詞もある。複数形のスペリングが -s や -es 以外の場合は、辞書に記載があるので確認すること。▶[詳細な解説はこちら](#h4he8ts3k2gu) |

**Checklist #2: [uncountable] [U] などの記載がある場合**

[uncountable] [U] などの記載は「不可算扱い」することを示しています。以下の項目を確認しましょう。

| **チェック** | **チェック内容** |
| --- | --- |
| Not OK | **複数形は存在しない**▶[詳細な解説はこちら](#2czwgfxb60mg) |
| Not OK | **基本的に a/an が付くことはない**▶[詳細な解説はこちら](#sll1577o2ng2) |
| Not OK | **singular verb (例: is, was) を用いる**（ただし、[単数・複数扱い] [+ singular or plural verb] [複数扱い] [+ plural verb] などの記載がある場合は例外）▶[詳細な解説はこちら](#ku9umj1xm3v2) |
| Not OK | **数えられないので、数えたい場合は異なる単語を使用する**▶[詳細な解説はこちら](#c5j9pkvlw1bw) |

**Checklist #3: [plural] [複数扱い] などの記載がある場合**

[plural] [複数扱い] などの記載がある単語には、-s のスペリングのもの (例: earnings, funds, sweets, basics) と -s のスペリングでないもの (例: police) があります。以下の項目を確認しましょう。

| **チェック** | **チェック内容** |
| --- | --- |
| Not OK　 | **plural verb (例: are, were) を用いる**▶[詳細な解説はこちら](#dt19gk86hlow) |
| Not OK | **前に数字を置くことができない単語が多い**▶[詳細な解説はこちら](#l135jr1m3j37) |

**Checklist #4: [+singular or plural verb] [+sing/pl verb] [単数・複数扱い] などの記載がある場合**

集合名詞 (collective noun) には、 [+ singular or plural verb] [+sing/pl verb] [単数・複数扱い] などの記載があります。以下の項目を確認しましょう。

| **チェック** | **チェック内容** |
| --- | --- |
| Not OK | **単数形で用いるとき、動詞は、意図によって、singular verb (例: is, was) と plural verb (例: are, were) のどちらかを用いる。*** 集合的にひとまとまりのものとして言及するときは singular verb を用いる
* 個々の構成員に言及するときは plural verb を用いる

▶[詳細な解説はこちら](#mnsgmedn0dw9) |

**Checklist #1: [countable] [C] などの記載がある場合**

[countable] [C] などの記載は「可算扱い」することを示しています。以下の項目を確認しましょう。

✖は間違った例を

✓は正しい例を

示しています。

* **単数形で用いるときは基本的に必ず限定詞 (determiner) を前に置く**

限定詞の例: a, an, the (冠詞); this, that (指示限定詞); my, his, her, their, its, John’s (所有限定詞); threeなどの数字, each, every, a few, many (数量詞)

例:

✖ The author provided idea for future research.

辞書で引くと、「アイディア」という意味の idea は [countable] であることが分かる⇒限定詞を前に置くことが必要

✓ The author provided an idea for future research.

✓ His idea for future research was interesting.

(複数の「アイディア」に言及する場合は複数形にする。

✓ The author provided ideas for future research.

✓ His ideas for future research were interesting.）

※ 例外的に、可算扱いする名詞を概念的なニュアンスで用いるときに、単数形でも限定詞をつけないことがある。

例:

✓ In this document, *assignment* refers to any assessed piece of work that counts toward your final grade.

→ 辞書で引くと、「課題」という意味の assignment は [countable] であることが分かる。基本的に単数形で assignment という単語を用いる場合は限定詞を前に置くことが必要であるが、この例文では assignment という単語を「課題とは何か」ということを定義する概念的なニュアンスで用いているため、限定詞を付けずに用いることが可能。

* **複数形のスぺリンクを確認する**

多くの名詞の複数形は -s や -es をつけることで作成できるが、そうでない名詞もある。複数形のスペリングが -s や -es 以外の場合は、辞書に記載があるので確認すること。

例:

(単数形) thesis → (複数形) theses

(単数形) hypothesis → (複数形) hypotheses

(単数形) analysis → (複数形) analyses

また単数形と複数形のスペリングが同じ名詞もある。

例:

(単数形) species → (複数形) species

注意: 単数形と複数形のスペリングが同じ名詞も、単数形で用いる場合は基本的に必ず限定詞を前に置く。

例:

研究で森林によく生息している種を扱ったとする。

扱った種が1つの場合:

✓ In this study, we examined a species commonly found in woodlands.

扱った種が複数の場合:

✓ In this study, we examined species commonly found in woodlands.

**Checklist #2: [uncountable] [U] などの記載がある場合**

[uncountable] [U] などの記載は「不可算扱い」することを示しています。以下の項目を確認しましょう。

✖は間違った例を

✓は正しい例を

示しています。

* 複数形は存在しない

注意: スペリングが -s であっても、[uncountable] である名詞もある（例: physics）。これらの名詞は、-s というスペリングであっても、[uncountable] であることに変わりはないので、「基本的に a/an が付くことはない」などのルールはそのまま当てはまる。

* 基本的に a/an が付くことはない

※ 例外的に、何らかの形で言及されているものが特定されているとき、a/an を付けることができる場合もある。

例:

✓ an awareness of environmental issues

→ 辞書で引くと、「意識」という意味の awareness は [uncountable] であることが分かる。基本的にawareness という単語に an を付けることはできないが、この例では「環境問題に関する意識」と「意識」が何に関する意識か特定されているため、an を付けることができる。

上の例のような「a/an を付けることができる複数形のない名詞」を singular noun として（辞書での表記は [singular] [S] など）として、uncountable noun と区別している辞書もある。また、[U][or a ~] や [U][or an ~] などと表記している辞書もある。

* singular verb (例: is, was) を用いる

（ただし、[単数・複数扱い] [+ singular or plural verb] [複数扱い] [+ plural verb] などの記載がある場合は例外）

例:

✖ Research have revealed that socioeconomic status is associated with health outcomes.

✓ Research has revealed that socioeconomic status is associated with health outcomes.

* 数えられないので、数えたい場合は異なる単語を使用する

例:

✖ three advices

✓ three pieces of advice

✓ three suggestions

✖ two researches

✓ two studies

☆ 意味によって、[countable] か [uncountable] か変わる名詞もあります。例えば、celebrity という名詞は、可算扱いすると「有名人」という意味、不可算扱いすると「名声」「有名であるという状態」という意味になります。このような名詞を使用するときは、まず可算扱いと不可算扱いのどちらの意味で使用したいのかを判断し（分からない場合は辞書を引きましょう）、可算扱いの場合は Checklist 1 を、不可算扱いの場合は Checklist 2 を使用します。

**Checklist #3: [plural] [複数扱い] などの記載がある場合**

[plural] [複数扱い] などの記載がある単語には、-s のスペリングのもの (例: earnings, funds, sweets, basics) と -s のスペリングでないもの (例: police) があります。以下の項目を確認しましょう。

✖は間違った例を

✓は正しい例を

示しています。

* plural verb (例: are, were) を用いる

例:

✖ The basics is explained in this tutorial.

✓ The basics are explained in this tutorial.

✖ The basic is explained in this tutorial.

※basic は形容詞で、名詞のスペリングは basics

　✓ basic calculus（ここでは basic は形容詞）

　✓ the basics of calculus（ここでは basics は名詞）

* 前に数字を置くことができない単語が多い

例:

✖ The country possessed 1,000 nuclear arms.

**Checklist #4: [+singular or plural verb] [+sing/pl verb] [単数・複数扱い] などの記載がある場合**

集合名詞 (collective noun) には、 [+ singular or plural verb] [+sing/pl verb] [単数・複数扱い] などの記載があります。以下の項目を確認しましょう。

✖は間違った例を

✓は正しい例を

示しています。

* 単数形で用いるとき、動詞は、意図によって、singular verb (例: is, was) と plural verb (例: are, were) のどちらかを用いる。
	+ 集合的にひとまとまりのものとして言及するときは singular verb を用いる

例:

✓ The staff at ICU is very reliable.

→ ニュアンスは「ICU職員は一つのグループとしてとても信頼できる」

* 個々の構成員に言及するときは plural verb を用いる

例:

✓ The staff at ICU are very reliable.

→ ニュアンスは「ICU職員1人1人はとても信頼できる」